



発行
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
 〒421-0412 静岡県牧之原市
 坂部 2151 番地 2
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
<http://www.yamabatogakuen.jp/>

機関誌代は無料です。

不安を解消する諸方法

(一)

前号の発行から二か月経ちましたが、この間、安倍元首相の襲撃事件、参議院議員選挙、英国のジョンソン首相の辞任表明、新型コロナウイルスの感染急拡大、線状降水帯の発生等々、国の内外で大きな出来事が起きました。又、ロシアのウクライナ侵攻後四か月経った六月二十四日、「市民の犠牲者は四千六百人以上になっているが、戦闘終結の見通しは全く立っていない」との報道があり、何とか平和への道を見出せないものかと改めて思われました。

元首相の暗殺事件は、私たちに大きな衝撃を与えましたが、ある人がこんなことを述べており、自由な国における治安や取締りにつ



いて考えさせられます。

「民主主義の自由と権利の享受は、銃弾・爆発物を作る『自由』を利用して犯罪の秘密性や密閉性とも背中合わせになっている」と確かに、独裁的で強権的な国において、権力者に逆らう者は、密告されたり、牢獄に収監されたり、殺されたりして、「監視」や「恐怖」を通して権力基盤が堅持されていますが、民主的な国では、思い込みにより怨みを抱く人も含め

て、様々な考えを持つ人々が自由に暮らしており、時には要人のいのちが狙われることにもなります。

「人民の、人民による、人民のための政治」を宣言したリンカーンは暗殺され、その他幾人もの政治家たちの命が奪われてきました。

今回の安倍元首相の不慮の死は残念なことですが、これを機に、有権者や国会議員たちが、共生社会形成のためには何が必要か十分考え、犯罪者を生み出さない社会、希望を持って生きられる社会形成のため、今まで以上に力を尽くすようになることを願っています。

(二)

当法人では、コロナが下火になり始めた六月や七月初めには、ご利用者や職員に関する行動制限を解き、研修や会議も対面で行うことが多くなりましたが、その後再び、感染者数が急拡大したため外出もしなくなり、会議や研修は殆んどZoomで、となっています。

七月八日、まだ対面研修が可能だったころ、「主任等研修・事例の学び」が地域の会場を借りて行われました。そのとき、「不安の連鎖」

という言葉を学びましたので、皆様にもお伝えしたく思います。

(以下、内容は、個人が特定されないよう、やや修正して報告)

講師は東洋大学の吉浦輪先生で、事例の対象となったのは、通所施設の職員たちが対応に苦慮しているご利用者でした。「この方が落ち着いて過ごせるようになるためには、どんな支援をしたらよいか」という相談です。

受講者の多くが、このご利用者に注目し、ご利用者目線で、職員たちの対応を検討したのに対し、講師からは、この事例の中心人物は「お母さん」であるとの指摘がありました。

「このお母さんは、夫の協力もえられない中、障がいを持つ子供を抱え、子どものために、よく頑張っていると思います。逃げていく親も多い中、踏みとどまって頑張っているらしい。今度機会があったら、ぜひ、お母さんの話を聴いてあげて下さい。子どものことに関するお母さんの気持ではなく、お母さん自身の物語を聴いてあげてほしい。彼女は周囲に悩み

を打ち明ける人を見出せず、不安なのです。心のよりどころがなく、安らぐことがない。それで、無意識の内にも子供のことを十分受けとめることができないのです。この、お母さんの不安は子供に伝わり、子供は施設でも落ち着かなくなっています。『不安の連鎖』と言いますが、お母さんの話に耳を傾け、お母さんの心が安らぐよう支援することが大事でしょう。」

(三)

施設関係者は、(ご利用者のことだけでなく)母親にも心を配らなければならぬ。つまり、ある意味で、お母さんの話し相手、友のような存在になる役割を求められていることになりました。期待の大きさを思わされますが、職員同士で助け合いながら、ぜひ、こうした役割を存分に果たしてほしいと願うことです。

自分の責任を放棄して現実から逃避する親たちや、心のよりどころを求めて怪しい団体であっても、のめり込んでいく人々のことが、テレビ等を通してしばしば報じられています。こういう時代だから

こそ、福祉関係者は、ご利用者だけでなく、時には家族に対しても支援を行い、自分を取り戻す機会を与え、助け合う地域社会形成のため協力すべきだと思わされています。

(四)

『経営協』は、全国社会福祉法人経営者協議会が発行している機関紙ですが、二〇二一年九月号の「論点」に、井手英策氏(慶應義塾大学経済学部教授)の論文「誇りを持って働くための条件を考える」が掲載されており、興味深い政策提言だと思いました。

最初に井手氏は、日本の経済は平成を通じて驚くほど衰退し、その結果、引き裂かれた社会が残つたと伝えます。自殺者が急増した一九九八年を分岐点として、それ以降、非正規労働者の増加、貯蓄なしの世帯の増加(二人以上の世帯では三割、一人暮らし世帯では五割に)等があり、平成初めに世界四位だった一人当たりGDPは、今では二十六位に転落。しかし、暮らしぶりに関する内閣府の調査に対し、九割以上の人々が「中

と回答。井手氏は、日本社会の現実をこう伝えます。「男も女も、歯を食いしばって働き、結婚や出産、持ち家を諦め、食物も着物も安い品で我慢し必死に人並みの暮らしを維持し、自分たちは中流だと信じた人たちが溢れた社会だ」と。

そして、生活防衛に必死な人たちが低所得者層に関心を持つはずはないので、日本社会から「弱者」への優しさが消えるかもしれないと警告。但し、「国民みんなが安心して暮らせるよう国は責任を持つべき」という質問に、約八割の人が賛成していることに、井手氏は希望を見出し、「中間層も含めた幅広い層を『受益者』にし、同時に、貧しい人たちののちも支える政策」を、『ベーシックサービスの無償化』という言葉で提言します。

ベーシックサービスとは、医療、介護、教育、障害者福祉といった「誰もが必要とする/しうるサービス」を指し、これ等のサービスを全ての階層に、無償で提供し、生活の根幹に不安を持たずに生きていける社会をめざしています。ベーシックサービスの無償化に

より不要になる医療扶助等へのお金を生活扶助の充実や住宅手当の創設、失業給付の拡充等々に充当。消費税をもう六%上げれば、ベーシックサービスの無償化、義務教育の給食費や学用品費等の無料化、福祉施設・幼稚園・保育所で働く人たちの給与の大幅なアップが実現すると計算しています。貧しい人たちに痛みを与える消費税への批判に対しては、増税は消費税だけで行う必要はないが、住宅手当の創設等により消費税負担上の給付が受けられると説明。

望みさえすれば、「誰もが、堂々と病院へ行き、介護を利用し、大に行ける社会が生まれ、『弱者を救済する』から『弱者を生まない』社会へと、公正の理念が転換される」と井手氏は語っていますが、私も含め、多数の人々の関心が寄せられることを願っています。

〈理事長〉長沢道子



一通の封書

河相 洸

四年に及ぶ太平洋戦争は、一九四五年八月、日本の敗北によつて幕を閉じた。その時私は、慶応大学予科の一年生、今の学齢で言えば、高校三年生であった。

戦争中は、思想、言論をはじめ、全てが統制されたが、敗戦は、自由な社会を実現させた。これからは自由に考え、思うように発言しよう、私は青春の血をたぎらせた。

だが意気込む私の前に、大きな壁が立ちふさがった。敗戦後しばらくして、予想もしない思い眼病を患つたのである。三年ほど療養したが、一向に改善せず、ついに失明を宣告された。

見える世界から、見えない世界への転換！予想だにしない悲劇であった。私は失望落胆の淵に沈んだ。しかし、時間の経過は、私に冷静さを取り戻してくれた。

「このまま沈んではいけない。どん底から這い上がり、自立するのだ。神は自ら助くる者を助くではないか」

意を決し、私は復学して、学業に専念した。だが常に前を向き、前進していたわけではない。時に立ち止まり、後ろを向いては己の不遇をかこち、存在を疑うことさえあった。

そうした最中、私の元に一通の封書が届いた。それが私を、もはや行きつ戻りつしないものに変えたのである。

差出人は、中学生の頃から親しい大学の先輩、Kさんである。概要は次の通りであった。

「洸くん、大変ご無沙汰をしました。今日はお変わりございませんか。い切つて手紙を書きました。御一読頂ければ幸いです。」

さて私は大学卒業後、一流会社から相愛の人と結婚しました。一児を授かり、順風満帆の日々を過ごしていました。ところが思いもかげず、大変な病魔に犯されたのです。それは結核性の脊髄カリエス

でした。下半身にも障害が出る状態だったので。しかし、私は病氣と闘いました。何とかこれを克服し、また仕事に就けるようにと、ひたすら療養に努めました。だが病魔にも勝る、恐ろしいことが起こったのです。それは妻が一粒種を抱え、私のもとを去ってしまったことです。理由は、私が不治の病ともいわれる大病を抱え込んだからでしょう。

常に私の傍らにあつて、私を支えてくれるとばかり思っていた妻が、私を見捨て、さつさと逃げだしてしまふとは、何と酷い仕打ちなのでしょう。私は絶望のあまり、病氣と闘う気力さえ失うほどでした。その日以来、悶々の日々を送っていたのです。

その矢先、君が失明したことを知らされました。いや、それだけではありません。君が失明の苦しみを克服し、自立を目指し、雄々しく戦っていることを知ったのです。それに引き換え、私はなんと女々しいことか。先輩として恥ずかしいことだ。私は君によつて覚せいされました。

洸くん、有難う。私は必ず病に

打ち勝ち、君のような見えない人達のために、奉仕の仕事をしたいと思つています。

どうぞお元氣でお過ごしください。君の前途が祝福されますように、お祈りいたします。」

一気に読み終わり、私はしばし感慨に耽つた。

しがたない私の存在が、一人の人間に勇気を与えるとは、全く考えもしなかった。それどころか、自分の存在を疑っていたりしたのだ。だがそれは間違いだったのだ。この手紙は、そのことを私に教えてくれた。

もし私が見えていたら、Kさんとこのような関わり方をしなかつたであろう。失明し、力強く生きていたからこそ、彼を奮い立たせたのだ。この一点において私の存在理由があると言える。

その日以来、私はもう後ろを振り向かず、ひたすら前進して、自立を果したのであった。

Kさんは難病を克服し、よき人に巡り合い、幸せな家庭を築かれた。一通の封書が、二人の友情を深めたことは言うまでもない。人生の出会いには不思議なものである。

デイサービスセンター「真菜」移転に感謝

デイサービスセンター「真菜」 吉田 陽子



二十三年間の
皆さんの思い
出が詰まった土
地(静谷)を離
れ、新しい建物
がある新地(坂

口)の聖ルカホーム前)に引っ越し
しました。

五月二日、新しい歩みのスター
ト。開所日には、嬉しさと不安が入
交り、何とも言えない気持ちで
利用者の到着を待ちました。入っ
てきたご利用者の感想は、「いい所だ
ね。」「木の香りがいいね。」「素敵
素敵!」と、皆さんとても気に入っ
ていただけただようので、職員も自慢
げに新しい施設を紹介。その様子
を見て、とても嬉しく思いました。
改めて、建設に関わって下さった皆
様に感謝の気持ちでいっぱいにな
りました。この日のために素敵なの
ウエルカムボードを
作ってくださったご
利用者さんにも感
謝!感謝!です。
最初の1週間は



「あれがな
い!」「これが
ない!」と、職
員の声飛び交
いドタバタ
していました
が、「利用者さ
んの方は落ち
ついて過ぎて
ました。」



毎日の日課は聖ルカホームの遊
歩道を歩くこと。素敵なイングリッ
シュガーデンが整備され、色とりど
りの花や草木に癒されながら歩行
訓練を行っています。幸せ感いっぱ
いで、意欲向上につながります。真
菜の玄関から飛行機が飛び立つと
ころが見えたり、雉のつがいや、夜
は蛍を見ることができました。な
んと言っても、聖ルカホームが近く
にあることで、とても安心できるの
です。

木の香漂う素敵な施設で、これ
からも優しさと思いやりの心で、
幸せいっぱい、ご利用者さんと職員
が笑顔で過ごせるよう、そして聖ル
カ、花ももと協力していろんな活
動ができたらいなと、ワクワクし
ています。地域の福祉ニーズにも応
えられるよう精いっぱい努めて参
りたいと思います。(施設長)

ケアセンターさざんかから花ももへ

ケアセンター「花もも」 桑原 裕子



旧建物の中では、雨
予報があると、ホー
ルに大きなビニール
プールを置き、雨
が上ると、プール
や天井裏に置いたバ
ケツの雨水を捨てる
という作業を何年も
続けていました。だ
んだん慣れてきてプ
ールにポチャ
ンツ、ポチャ
ンツと落ちてくる雨
水も風情があつて
いいものだ、な
どと思っていました。
しかし、その土地
は土砂災害危険区域
に指定されており、
築五十年近くたっ
た建物は安心安全
に過ごすには限界
が近づいていまし
ました。何年も
前から移転先を探
した結果、この度
坂口に適切な土地
を確保することが
でき、「真菜」と共
に新築移転しまし
た。大勢の方たち
のご協力のもと、
新施設の建設とい
う未知の経験もさ
せていただきました。
感謝申し上げます。
牧之原市総合福祉
センター「さざん
か」の名称と同じ
だったため、

間違われることも
しばしばあり、今
回の移転と同時に
事業所名も「花も
も」に変更するこ
ととなりました。

新施設での備品
は赤い羽根共同募
金会の助成を頂き
新しく揃えることが
出来ました。建設、
備品2つとも、補
助金を頂いたこと
に感謝いたします。

花ももは、聖ルカ
ホーム、デイサー
ビスセンター「真
菜」の2つの介護
事業所と隣接して
います。以前は、
高齢者施設の人
たちとほとんど交
流がありません
でしたが、今は聖
ルカホームに移
った元ご利用者
が支援員さんと
遊びに来てく
れたり、散歩中
の真菜のご利用
者とお喋りしたり
と、顔を合わせ
ることも多くな
っています。

事業所入り口に
はきれいな花壇も
整備されました。
ぜひお近くにいら
した際はお立ち寄
りください。(施設長)



本部・希望寮の女子トイレ事情

本部 大石節子

一九九七年に建てられた「やまばと希望寮」の建物の中には、現在、希望寮だけでなく、法人本部、そして生活支援センターも入っています。元々狭い建物だったところを増改築することにより、今のような多様な世帯に広がったのですが、様々な人たちが交流できるのは良い点ですが、困る面もあります。その最たるものは、職員用トイレ数が少ないこと。特に、女性職員数に比べて、女性トイレの数が圧倒的に少ない、ということがあります。

具体的に言うと、女子職員用のトイレの数は、1階に1つと、2階にご利用者と職員とが共用できるトイレが2つ、合わせて、3つです。一方、建物内で働く女性職員は、本部で6人、生活支援センターで8人、やまばと希望寮で17人で、多くの人が1階で働いていて1階のトイレを使うので、平均すると、平日は、1日(8時間労働)、約15人〜20人余の人たちが1つのトイレを使っていることになりました。

そんなわけで、女性トイレ利用者がかか合う場面がしばしばです。誰

かが使っていると、扉の前で待機する人、二席に戻って待っているうちに誰かに先に入られ、再待機する人、体調と相談しながら譲り合う人等、いろいろな光景が見られます。

行事で人の数が増えたり、研修会の会場になった時などは最悪です。休憩時間には女性が殺到し、廊下に長い列ができます。いよいよのときは、隣の男子トイレに「女子使用中」の札を立てて、男子トイレを開放しますが、そんなときも、尿意に迫られた男性職員が、掛けられた札も目に入らず急いで鍵を開けて入ってきたりして、全く落ち着きません。

数年前から、「女子トイレの増築をー」という声が挙がっていますが、今の建物への増築は、土砂災害等の制限区域になっていることから難しく、「希望寮の建替」となると話が大きくなりません。結局女性たちは、毎日のトイレ渋滞に忍耐強く付き合っているわけです。

実は、私は、この7月末を持って退職予定で、トイレ待機者を1名減らすことに貢献することになります。が、いろいろな意味で思ひ出深い、この女性トイレ問題解決のために、これからもエールを送りたいと思います。

(事務員)

地域を見守る

ワークセンターなのはな 西村美恵子

近年、詐欺事件が多発していることは新聞やテレビで報道されていますが、私達が暮らす島田市内でも被害がとも増加しているという耳にします。もはや他人事ではなく、ごく身近な問題となっているのです。残念な事ではありませんが、今の時代、防犯カメラや車のドライブレコーダーは、個人や事業所を守る為に必要不可欠な物と感ぜられるようになりました。

ワークセンターなのはなの防犯カメラは火災事故を体験したことから設置されたものです。



これまで、事業所敷地内でのトラブル(侵入者等)があると原因究明に役立ってきましたが、近年は、地域に事件が発生すると県警の方が訪れ、防犯カメラ画像提供を求められるようになりました。特に私たちの事業所は、島田駅南の商業地域に近い住宅地ということで、そのような機会に遭遇することが多いのかもしれませんが。

五〜六月には、近隣の老人の方が詐欺にあわれ、防犯カメラの画像提供をしたことで犯人特定に繋がったと感謝の言葉を頂きました。又、認知症とみられる方がケガをされて散歩されており、警察の方から引き渡した事もありました。

これからも、私達は、事業所を利用されている方を支えるだけでなく、備えている設備を活用し、地域で暮らす方々が安心して暮らしていけるよう、見守り続ける事業所でありたいと思います。

(施設長)

2021(令和3)年度 社会福祉法人牧ノ原やまばと学園決算報告

2021年度も皆様のご支援やお祈りに支えられ活動を終了できましたことを心から感謝申し上げます。

2022年3月末時点で、牧ノ原やまばと学園には、31の事業所(高齢者福祉関係は10、障がい者福祉関係は19、他に本部及び診療所)があり、職員数は、パート職員を含め、476人となっております。

さて、今回の決算報告ですが、主たる福祉活動による収益は、約21億4,000万円、支出は約20億8,000万円。サービス活動増減差額は、約6,250万円となりました。

「ケアセンター花もも」と「デイサービスセンター真菜」の移転新築工事が年度内に完了し(約3億480万円)、2022年5月から開所しました。花ももの施設整備補助金約5,240万円以外は、金融機関借入を行わず、法人内資金で調達することができました。

2022年1月末からは、新型コロナ感染拡大により、「マーガレット」「真菜」「聖ルカショートステイ」「すずらん」「あさがお」などが、臨時休業をしたため、一時的に収入減となりました。

今後の課題としては、障害者部門では、相談事業「生活支援センターやまばと」、並びに、委託事業「レタスクラブ」の運営、そして、「花もも」「希望の家」「ふれあい」「コスモス」におけるご利用者確保といえます。

一方、高齢者部門では、委託事業の養護老人ホーム「ぎんもくせい」における新型コロナの影響による入居者減、居宅介護支援事業所「シャローム」の運営のための工夫が必要です。グレイス、すずらんを含めた、「恵の丘」全体の経営状況は、10年前と比べてかなり改善されました。

詳しい内容をご覧になりたい場合は、各事業所にあります事業報告・決算報告書をご覧ください。

寄付金収支内訳

2021年度も多くの皆様よりご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

(単位：円)

収入内訳	一般会計	
	科目	金額
本部取扱い分	寄付金	12,087,755
	誌代として計上した寄付金	1,955,737
	小計	14,043,492
事業所取扱い分		3,830,519
合計		17,874,011

支出内訳

支出内訳		金額
機関紙代		1,955,737
建設工事関連費用※		12,087,755
その他費用		3,830,519
合計		17,874,011

※ 2021年度内事業のケアセンター花もも及びデイサービスセンター真菜建設工事関連費用に活用させていただきました。

牧ノ原やまばと学園貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,043,190,287	流動負債	233,205,048
固定資産	3,650,145,889	固定負債	581,264,108
基本財産	2,401,307,309	負債の部合計	814,469,156
その他の固定資産	1,248,838,580	純資産の部	
		基本金	542,667,132
		国庫補助金等特別積立金	644,968,972
		その他の積立金	885,924,000
		次期繰越活動増減差額	1,805,306,916
		純資産の部合計	3,878,867,020
資産の部合計	4,693,336,176	負債及び純資産の部合計	4,693,336,176

助成に関して

助成金をいただき、以下のものを購入しました。感謝して報告いたします。

(単位：円)

助成団体名	事業所名	物品名	助成金
NHK 歳末たすけあい助成金 (静岡県共同募金会)	養護老人ホーム相寿園	クリスマス会経費、新年会経費	164,000
NHK 歳末たすけあい助成金 (静岡県共同募金会)	養護老人ホームぎんもくせい	クリスマス会経費、新年会経費	183,000
敬老会実施事業費助成金 (鳥田市)	養護老人ホームぎんもくせい	敬老会費用	31,200

牧ノ原やまばと学園資金収支計算書

(自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日)

(単位：円)

		勘定科目	決算
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	755,083,500
		老人福祉事業収入	226,534,791
		就労支援事業収入	50,507,159
		障害福祉サービス等事業収入	1,080,667,558
		医療事業収入	8,009,170
		その他の事業収入	6,150,808
		経常経費寄附金収入	15,918,274
		受取利息配当金収入	73,607
		その他の収入	8,345,455
		事業活動収入計(1)	2,151,290,322
	支出	人件費支出	1,398,226,476
		事業費支出	298,338,572
		事務費支出	202,160,892
		就労支援事業支出	51,810,607
		利用者負担軽減額	1,705,757
		支払利息支出	3,345,726
		その他の支出	3,257,228
		事業活動支出計(2)	1,958,845,258
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		192,445,064
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	52,400,000
		施設整備等寄附金収入	1,107,700
		施設整備等収入計(4)	53,507,700
	支出	設備資金借入金元金償還支出	21,166,678
		固定資産取得支出	430,862,371
		固定資産除却・廃棄支出	12,220
		ファイナンス・リース債務の返済支出	3,760,088
		その他の施設整備等による支出	2,991,480
		施設整備等支出計(5)	458,792,837
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 405,285,137
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	182,685,408
		その他の活動収入計(7)	182,685,408
	支出	積立資産支出	181,863,240
		その他の活動支出計(8)	181,863,240
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		822,168	
予備費支出(10)		0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 212,017,905	
前期末支払資金残高(12)		1,120,954,307	
当期末支払資金残高(11)+(12)		908,936,402	

牧ノ原やまばと学園事業活動計算書

(自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日)

(単位：円)

		勘定科目	決算
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	755,083,500
		老人福祉事業収益	226,534,791
		就労支援事業収益	50,507,159
		障害福祉サービス等事業収益	1,080,667,558
		医療事業収益	8,009,170
		その他の事業収益	6,150,808
		経常経費寄附金収益	15,918,274
		その他の収益	2,964,925
		サービス活動収益計(1)	2,145,836,185
		費用	人件費
	事業費		301,143,886
	事務費		202,197,361
	就労支援事業費用		52,236,030
	利用者負担軽減額		1,705,757
	減価償却費		170,254,198
	国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 51,850,500
	サービス活動費用計(2)		2,083,324,658
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		62,511,527
	サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益
その他のサービス活動外収益			5,380,530
費用			
		サービス活動外収益計(4)	5,454,137
		支払利息	3,345,726
		その他のサービス活動外費用	3,420,828
		サービス活動外費用計(5)	6,766,554
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		△ 1,312,417	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		61,199,110	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	52,400,000
		施設整備等寄附金収益	1,107,700
		固定資産受贈額	0
		固定資産売却益	0
		その他の特別収益	408,865
	特別収益計(8)	53,916,565	
	費用	固定資産売却損・処分損	30,828
		国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	0
		国庫補助金等特別積立金積立額	52,408,668
		その他の特別損失	0
特別費用計(9)		52,439,496	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		1,477,069	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		62,676,179	
繰越活動増減差額の部	繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,733,580,737
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,796,256,916
		基本金取崩額(14)	0
		その他の積立金取崩額(15)	175,050,000
		その他の積立金積立額(16)	166,000,000
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,805,306,916

歩みのあと

(5月1日〜6月30日)

●全体的なこと

▼定時評議員会。主な議題は、理事及び監事の選任、計算書類及び財産目録の承認、基本財産の処分、定款の変更等。(6/11)

▼第2回理事会。主な議題は、管理者人事、2021年度補正予算案、グレイスショートステイの廃止、2022年度事業計画と予算案等。(6/11)

▼新入職員研修。講師は長崎朗氏、「働きがいのある職場について」。(6/17)／管理者研修。田島誠二氏、中期計画策定に関する基本回りの研修(経営に対する基本姿勢)。(6/28)

●個別のニュース

《法人》サポーターズカレッジ申込。(5/23)／理事長と本部女性職員5人の話合による下記の提案。実習中の学生へ声かけやフォローをする。希望があれば他施設の見学。翌日より実施。(5/26)常葉大学実習生との施設見学。(6/2)

《垂穂寮》保護者会の皆様により奉仕作業が行われ、大変にキレイになりました。ありがとうございます。(5/28)／施設長による職員面接。(6月)

《みぎわ》避難訓練。(5/8)／ご利用者ミーティング。(5/28)／連休の昼食に外部のテイクアウトメニューで、休日を楽しんで頂きました。(5/6・7)

《野ばら》エンジョイプランにてご利用者2名と職員2名で、御前崎へ日中外出。(5/26)

《やまばと希望寮》厨房北側樹木伐採。(5/24)／エコキートからガス給湯に変更工事。(5/27)／医療マッサージを再開。(6月)

《わかば》もくれん「ハーベキューパー

●個別のニュース

ティー。調理される焼肉、焼きそば等を興味深々にのぞき込むご利用者もいました。(もくれん5/14、わかば6/11)

《花もも》ご利用者のお宅からいただいた新茶を「新茶を楽しむ会」ホッとくつろぐひと時に。／勝ち残りスポーツ大会の開催。4ゲームの戦い、最後は景品のお菓子をみんなでハクバク。(6/29)

《カサブランカ》作業テントハウス内を部使用しやすいように整理。

《希望の家》母の日や父の日に代わり、家族に感謝する日を設定し、「ご家族にお菓子を添えて「ありがとう」を伝えました。(5/11)／交通安全教室。(6/9)

《ポッチャ大会》(6/23)

《ふれあい》希望の家同様、家族に感謝する日を実施。(5/13)

《なのはな》横井町クリーン作戦(5/11)／プラン作りと職員お別れ会。(5/31)

《あさがお》島田市公認しまとレをスタート。(5/14より)／青野先生のリフレッシュ体操を開催。(5/17)

《Woodyやまばと》特別支援学校2年生が母親とともに施設見学。(5/30)／いつもの昼食ではなく、マクドナルドを注文、みんな嬉しそうに食べていました。(6/10)

《コスモス》島田市第2地区民生児童委員との交流会を兼ね園芸教室。作業受託をしているヤマシタコーポレーション様から講師を招き、二人一人が鉢植えを作って持ち帰りました。(6/23)

《かたくりの花》チームアップで「ふわふわカステラ&フルーツソナタ」と素敵なネーミングをした台湾カステラを制作。美味しく食べて笑顔いっぱい。(5/27)

《さくら》染色体験「私のオリジナルハンカチづくり」。白色のハンカチ

を輪ゴムで絞り、染色剤を使い、それぞれ思いのままに染色。仕上がったハンカチを見て、美しい模様で歓声。(6/24)

《マーガレット》誕生会を兼ねてミニ運動会。(5/23)／ご家族等への感謝の日を実施。手すきの紙に日頃の感謝を込めて「ありがとう」と墨で書き、好きな色のリボンで飾り付け、個性あふれる作品をプレゼント。(5/27)／初のキャンプ体験。みんなの力で大きなタープやテントを組み立てて大興奮。テントの中に入り寝そべる方や外を眺める方もいて楽しんでいました。(6/24)

《レタスクラブ》グループホームもくれんの裏山で山菜取り、ヨモギの効能を調べた後、ふらふらしてお腹の中に。(5/2)／ご利用者たちが仲間の似顔絵、動物など、それぞれの思いの絵を書きました。ダジャレ入りや風刺画もあり大胆なタッチに脱帽。(6/13)

《生活支援センターやまばと》定例部会。(5/24)

《聖ルカホーム》グレイスへの職員派遣を実施。(5月)

《グレイス》ご利用者におやつと新茶で季節の香りを味わっていた頂きました。／今年度から感謝の思いを伝えあう時を持つてます。ご利用者にも職員にも想像以上にたくさん感謝のメッセージが伝えられました。／ユニット単位での外出、秋葉公園で紫陽花を観賞後、マクドナルドで好みのハンバーガーを購入、施設に戻って味わいました。(6/4)／吉田公園に外出。お花や小動物を眺め、皆さんの歩行状態の確認。(6/23)

《相寿園》空きスペースに平行棒を設置。ご利用者から「おかげさまで足が上がるようになったよ。」と訓練の成果を報告して、いただき

きました。(5月)

《ぎんもくせい》3年ぶりの大運動会。ご利用者もたくさん運動できて楽しそうでした。(5/19)

《真菜》5月1日新施設へ引越、5月2日より営業開始。／炊き込みご飯と新じゃがのお味噌汁をつくり、皆で美味しくいただきました。(5/24)

《すずらん》カレーライス作り。(5/17)／牡丹餅づくり。献立から考えてもらって実施。(5/26)／運動会。ご利用者も職員も親睦を深めることができました。(6/17・18)

《さくらん》感染防止研修。(5/9)／《シャローム》在宅生活が急に困難となったご利用者のために、サビズ利用開始まで毎日訪問して支援を行いました。(5月)

《オリブ》さくら会にゴミ出し支援を一件依頼。

《ぶどうの木》5月生まれの人たちの誕生会(このほりを歌い写真添える。ひとりひとりから話を聞く時間をつくり笑顔を引き出す機会となりました。

ボラティア活動

★活動者名(敬称略、順不同)

個人内藤きせ、松浦愛子、大川原富美子、井部博美、殿村隆夫、大塚小島

団体岩本造園(庭木の手入れ・草刈り)、日赤奉仕団(草刈り、窓ふき)、さくら会(余暇活動補助)、金谷手打ちそばの会(そば打ち)

実習生受け入れ状況

《垂穂寮》

東京通信大学1名
5月9日〜6月11日

《ワークセンターコスモス》

常葉大学保育科1名
5月23日〜6月3日

島田看護専門学校3名
6月9日

2名
6月29日

《なのはな》

島田看護専門学校2名
5月25日〜5月26日
6月30日〜7月1日

《ワークセンターさくら》

常葉大学保育学科1名
5月23日〜6月3日

《なのはな》

★表紙の写真は、聖ルカホームのご利用者。お稲荷さんをたくさん作って、みんなでいただきました。

☆河相潤様は、一九二七年カナダ生。滋賀県立彦根盲学校教諭や浜松盲学校教諭を経て、現在は浜松ゆうゆうの里にお住まい。「ぼくは盲導犬チャンピオン」など、著書多数で、最近も、新著「花みずきの道」を刊行されました。最愛の夫人を亡くされた後も、前向きにお元気に過ごしていらつしやるので、その秘訣などを書いていただきました。

《ワークセンターさくら》

☆「やまばと機関紙」の価格は、本年四月二日から無料となりましたので、ご承知ください。

(I)

寄付金	指定寄付金	合計	
4月~5月	499,800	0	499,800
6月	942,141	0	942,141
計	1,441,941	0	1,441,941

※ 2022年度より、機関紙代収入は計上していません。すべて寄附金取入として、計上しています。